

第一章 序論

はじめに (14)

第一節 エートスとは (16)

第二節 社会倫理学的研究とは (21)

むすびにかえて (26)

第二章 最初の診断・処方―「第一上書」の内容

はじめに (30)

第一節 「国風の崩レ」と「政道」との関係 (31)

第二節 「不学不術」の風潮 (37)

第三節 「近来ハ武道甚踈畧ニ相成候」 (41)

第四節 「制度」・「法令」・「賞罰」の目的 (47)

第五節 殖産と儉約の生活態度 (55)

第六節 「勇々敷御國風ニ而日本無双の御國」 (62)

むすび (66)

第三章 「第二上書」の内容―日本無双の文武国へ

はじめに (74)

第一節 「学校を建立可仕為めの貨殖の術」 (76)

第二節 「国貧しく御座候得バ自ら義理と恥とハ不知様に罷成候」 (85)

第三節 「御国風一変」による「日本無双の文武国」の出現 (94)

むすび (97)

第四章 「第三上書」と「富国策」

はじめに (102)

第一節 「御国之御寶」 (103)

第二節 貧と富の違い(114)

むすび(120)

第五章 『海国兵談』の思想

はじめに(124)

第一節 海国、海戦そして挙国的海防体制(127)

第二節 土着制度への回帰(135)

第三節 「文武両全」(141)

第四節 「国家を経済する」(148)

むすび(153)

第六章 結論—社会倫理思想史・近代化思想における子平思想の意

義(164)

参考文献目録(170)

付篇

「第一上書」(178)

「第二上書」(223)

「第三上書」(253)

「富国策」(276)

「林子平先生年譜」(280)